

～地域コミュニティづくりをめざして～

教育コミュニティ 北東西南 2019

(North East West South)

令和元年9月8日(日)に行われました講演会において、開始の先生の第一声が、「今日はユーモアをテーマにお話ししますが、正直いって笑うところはありませんので、最初にお断りしておきます。」でした。

私たちの日常にはユーモアがあふれています。しかし、誰がどのような目的や内容で発信するか、によって「よいユーモア」と「悪いユーモア」に分かれます。また、ユーモアの種類は以下の表のとおりです。

ユーモアの種類	目的	よく利用されるユーモア刺激
攻撃的ユーモア	誰かを攻撃することを目的とするもの	風刺、ブラックユーモア、皮肉、過激な刺激、暴力的な刺激、嘲笑、からかい、自虐、差別的な表現
遊戯的ユーモア	自己や他者を楽しませること自体を目的とするもの	だじゃれなどの言葉遊び、ありふれた日常のエピソード、ドタバタ、内容自体にあまりメッセージがないもの
支援的ユーモア	自己や他者を励ましたり、支えたり、落ち着かせたりすることを目的とするもの	自己客観視や自己洞察を含む刺激、重い問題を軽く見せる刺激

1992年 上野行良「ユーモア現象に関する諸研究とユーモアの分類化について参考」

ユーモアに対する志向性と心理的特性傾向

遊戯的ユーモア

- ・親和欲求が高い
- ・拒否回避欲求が高い
- ・共同的人生観が高い
- ・公的自意識が高い
- ・努力的人生観が高い

支援的ユーモア

- ・親和欲求が高い
- ・ネガティブ事象の持続性が高い
- ・思いやり行動が多い
- ・ネガティブ事象の受容性が高い
- ・共同的人生観が高い
- ・努力的人生観が高い

2003年 上野行良「ユーモアの心理学」(サイエンス社) 参考



第3回 青少年指導者講習会
日本お笑い学会所属
佛科大学教育学部教育学科
青砥 弘幸(あおと ひろゆき)氏
「子供との関わりにおけるユーモアの可能性」

攻撃的ユーモア

- ・博愛的人生観が低い
- ・道徳的人生観が低い



当日はあいにくの雨で、室内のみの活動でしたが、活動プログラムとして折紙教室が行われ、季節に合わせたハロウィンの壁飾りを製作し、みんな大喜びでした。見学後も活発な意見交流ができ、有意義な時間となりました。参加された皆様、ありがとうございました。



令和元年5月28日(火)、青少年指導者講習会には4度目の登場となる三保さんによる『身近な安全管理』の講習会を行いました。熱中症について、本格的に暑くなる前に具体的な予防方法や対策などを聞くことができ、とても参考になりました。また、応急手当普及員の小松さんにも協力していただき、参加者全員で簡易救急救命ツールの「あっぱくん」を使って心肺蘇生の実習を行いました。積み重ねることで緊急時にスムーズな対応ができるようにしておきたいと思います。



第1回 青少年指導者講習会
一般財団法人大阪市青少年活動協会
三保 洋士(みほ ひろし)氏
「青少年活動における身近な安全管理 part4」



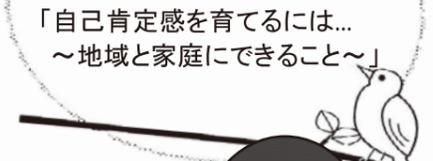
令和元年6月20日(木)に行われた伊丹先生のお話しによると神経発達症(発達障がい)、愛着形成不全や起立性調節症(朝起きられない)、HSC(感受性が強すぎる子供)など、気になる子供が増えてきているそうです。しかし、それらの子供たちに共通することとして「セルフエスティーム(=自己肯定感、自己有用感などと日本語訳される)の欠如」があげられます。

『自己肯定感』	ありのままの自分を受け入れ、自己価値を感じ、自分は大切な存在だと思える心の状態
『自己有用感』	他者の存在を前提として誰かの役に立っている、誰かに必要とされているという満足感から得られる、自分への肯定的な感情

自己有用感を育て高めるには、大人が子供の基準や水準でほめることや、子供を認めることが重要となります。「大人が子供たちとかかわるときには子供に注目し、気持ちを受け止め、感情を共有するように努めたり、「私メッセージ」でポジティブな言葉をかけてあげたりしてほしいと思います。また、子供のいいところ探しをしてあげてください。大人の怒っている顔の向こうに子供の笑顔はありません。過ぎ去ったことにくよくよせず、今を大切に子供たちのよりよい未来のために無理せず取り組んでください。」とエールをいただきました。

重いテーマにもかかわらず、毎回ユーモアを交えてお話しくださる先生に感謝しつつ、日々子供たちと触れ合う私たちが落ち込んだ時に元気を取り戻せる魔法の言葉やリラックスできるものをできるだけたくさん持つことが大事だと実感した講習会でした。

第2回 青少年指導者講習会
梅花女子大学心理こども学部心理学科
伊丹 昌一(いたみ しょういち)氏
「自己肯定感を育てるには...
～地域と家庭にできること～」



令和元年11月29日(金)の講習会では、ユースワーカーの赤木先生から地域の大人に大切なこととして、以下のようなお話がありました。

- ◆ SNSの普及により、子供たちの間でも距離感がわかりにくくなり、戸惑っている子が増えている。子供たちとかかわるうえで、お互いに距離感を見極めることが大事である。
- ◆ 子供たちと話をするときには向かい合うより「ななめ45度」の位置関係がお互いに話しやすい。依存から自立に向けて、指摘されて行動するのではなく、気づいて考動できることが大事。大人は少しずつ情報を与えて大きくなるにつれて、選択できるようにしてあげたり、自己の決定を応援してほしい。
- ◆ 共感されていると感じられると子供はどんどん頑張れるので共感する時は自分の同じような経験に置き換えて共感してあげる。

ワークを交えての赤木先生のお話はとても興味深く、時間のたつのが早く感じました。日常の活動に役立てたいと思います。

第4回 青少年指導者講習会
ユースワーカー
赤木 功(あかぎ いさお)氏
「子どもたちとの関わり方
具体的活動手法の実践について」



まなび吹っち

長期休業中に学びや様々な体験活動を行う機会をつくることにより子供の居場所の確保、自己肯定感の醸成・健全育成を目的とした「まなび吹っち」を開催しました。

子供たちは、日常から親しみのあるゆいびあや地区公民館、児童センター、児童会館を会場として、夏休み、冬休みの宿題に取組み、休憩時には児童厚生員によるクイズやゲームで仲間と交流を図りながら楽しみました。また、地域のボランティアの方の見守りもあり子供たちは充実した時間を過ごすことができました。



【発行・連絡先】
〒565-0824
吹田市山田西4丁目2番43号
子育て青少年拠点夢つながり
未来館(ゆいびあ)3F

吹田市教育委員会
地域教育部 青少年室

Tel 06(6816)9890
Fax 06(6816)8554

豆mame知識

地域で心肺蘇生法の研修をするとき、人体モデルや簡易救急救命ツールの「あっぱくん」がなくても、硬式テニスボールを心臓に見立てて心臓圧迫の体験をすることができるので一度トライしてみてください。



笑顔育てる

笑顔で育てる



10月19日（土）、山田第三小学校の体育館で西山田中学校区地域教育協議会と両地区の青少年対策委員会主催の『NYD Smile Festa ～なかよくゆかいにどこまでも～』が開催されました。西山田中学校区ではこれまでも「子どもシンポジウム」として講演会や音楽会などが行われていましたが、昨年度から「勉強以外の場所で好きなことに打ち込んでいる子供たちを紹介しよう!」と、エントリー制にし、子供たちが自由に参加できるようになりました。生徒会執行部が司会進行を担い、小・中学生による演奏、歌とダンス、バトン演技、と、盛りだくさんの内容で、出演した子供たちもやりきった感にあふれた満足の笑顔を見せていました。観客の皆さんからは『カッコいい!かわいい!すてき!!!』の声が上がり会場は終始、笑顔と歓声に包まれ、西山田地区が一つにまとまった一日となりました。

2019年10月にすこやかネット研究会から発行された「すこやかネット（地域教育協議会）の活動に関する研究報告書」には、大阪府で2000年度より始まった「総合的教育力活性化事業」における「教育コミュニティづくり」の基盤として設置された「すこやかネット」に焦点を当て、その活動状況を研究した結果が示されています。以下に調査結果の一部（抜粋）をまとめました。

- ◆おおむね学校と地域が良好な関係を築きながら「すこやかネット」の活動が進められていることが分かった。
- ◆課題としては会議等の運営や人材確保などがあるが、地域と学校が協働の理念を共有することが重要であると確認された。
- ◆「すこやかネット」の運営形態は地域によって多様であるが、地域住民や保護者など、より多くの人々が諸活動にかかわることで「すこやかネット」の活動がより活性化している。
- ◆地域の方々が、様々な形で子供たちを受け止めてくれる「すこやかネット」で紡がれた重層的なネットワークが基盤となり子供たちの居場所や日々の生活・学習が支えられているとともに子供を介した活動を通じて地域の大人たちにも自然につながりが生まれている

これからも子供たちの笑顔のために学校・家庭・地域の協働により教育コミュニティの充実に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

すこやかネット研究会
「すこやかネット（地域教育協議会）の活動に関する研究報告書」より

10月26日（日）、「山田東中学校区地域教育協議会『第15回フェスティバル』」が山田伊射奈岐神社太鼓御神輿保存会のみなさんによる勇壮な和太鼓の演奏とともに開幕しました。このフェスティバルには生徒会をはじめ多くの中学生がかかわっており、企画や準備、当日の進行を地域の大人たちと一緒に進めてきました。小中学生の演奏や踊り、地域の方たちのダンスや空手の演武、山田高校吹奏楽部による演奏など熱気あふれるパフォーマンスで、幼児から高齢者まで多くの観客を魅了しました。



豊津中学校区地域教育協議会では、毎年、関西大学と連携して「大学クラブ体験」を行っています。この行事は、校区の小中学生が参加し関西大学の学生さんと様々なクラブ活動を体験する催しです。子供たちにとっては、大学生のお兄さんやお姉さんと一緒に昼食をとり、普段触ったこともないような道具を使ってしたことのない体験ができるよい機会となっています。また、普段行っている練習をより深化して体験できる貴重な機会でもあり、これからも続けていきたい大切な行事です。今年も1月26日（日）に実施され、有意義で心に残る一日になりました。



この広報紙では学校支援や子育て支援、大人のネットワーク拡大や子供の課題の共有を目的として地域教育協議会*の活動や講習会の案内、報告を紹介しています。

*地域教育協議会とは・・・市内全18中学校区内に設置されており、保育園・幼稚園・小・中学校、PTA、自治会、青少年育成に関わる各種団体、地域の有志、子供たちによって構成され、子供たちを見守り育てる活動を行っています。

